

木本議員 皆様、おはようございます。5番木本です。議長のお許しをいただきましたので、通告に従い2問一般通告させていただきます。まず、牟岐町における少子化対策及び子育て支援の充実について、子どもたちへの入学祝い制度の創設について少子化が進む中、一人の子どもの存在が以前にも増して大変貴重なものとなっています。入学は、子どもたちにとって人生の大切な節目であり、その門出を町全体で祝い、応援することは、子どもたちの健やかな成長を支えるだけでなく、子育て世帯への励ましにもつながるものと考えます。県内では既に多くの自治体が入学祝い金や商品券、軽量通学用リュック、学用品など、独自の支援制度を実施しています。本町におきましても、未来を担う子どもたちのために、入学祝い制度の創設について前向きなご検討をお願いしたいと思います。1番、子どもたちの新たな門出を応援するため、本町独自の入学祝い制度の創設が必要と考えるが、町としての見解は。2番、現金支給に限らず、図書カードや学用品など、実用的な形での支援について、どのように考えていますか。3番、少ない子どもたちだからこそ、町全体で大切に育むという観点から、今後の子育て支援のさらなる充実について、町としてどのように考えていますか。本年度の新入生は、わずか小学校7名、中学校14名です。一人ひとりが牟岐町の宝であります。どうか前向きなご検討をよろしくお願いします。次に、アウトドア及びマリンスポーツを活用した地域活性化についてお伺いします。モンベルと徳島県が包括連携協定を締結し、アウトドアを軸とした地域活性化の取り組みが進められています。1番、モンベル7つの使命とは、自然環境保全意識の醸成。2番、子どもたちの生き抜く力を育む。3番、健康寿命の推進。4番、災害時の対応力。5番、エコツーリズムを通じた地域経済の活性。6番、農林水産業への支援。7番、高齢者・障がいある方のバリアフリーです。自然と海に恵まれた牟岐町においては、トレイルランニングに加え、サーフィンやサップ、スキューバダイビング、さらには千年サンゴをはじめとする貴重な海洋資源、出羽島の散策や釣り、磯釣りなど、多様で魅力ある地域資源を有していると考えています。さらに、牟岐町の山・海・川、一本桜やくすの木、さらには遊休農地などの豊かな地域資源をどのように活かしていくかが、今後の地域活性化において重要であると感じています。また、プール改修や庁舎・消防施設の新築など、地域基盤整備も進められており、今後の町の方向性が大きく問われる時期であると考えています。そこで、以下4点についてお伺いします。まず1点目であります。モンベルとの連携を含め、アウトドア及びマリンスポーツ、さらには千年サンゴなどの資源をどのような具体的施策として展開していくのか、お考えをお聞かせください。2点目であります、トレイルランニング並びにサーフィン、サッ

プ、スキューバダイビング、千年サンゴ、出羽島散策、釣りなどを活かし、牟岐町の魅力として発信し続けるための地域ブランド戦略についてお伺いします。3点目であります、改修されるプールや新築される庁舎・消防施設を観光・防災・マリンスポーツの拠点としていくのか、ご見解をお示してください。4点目であります、これらの取り組みを通じた移住・定住促進、若者の雇用創出、並びに地域住民との連携による持続可能な地域活性化についてお考えをお聞かせください。以上、前向きで具体的なお答弁をお願いします。

喜田議長 中井教育次長。

(中井教育次長 登壇)

中井教育次長 只今ご質問いただきました「牟岐町における少子化対策および子育て支援の充実並びに入学祝い制度の創設について」お答えします。まず、議員ご指摘のとおり、少子化対策は当町にとりまして喫緊の課題であり、未来の牟岐町を担う子どもたちを社会全体で育む環境を整えることは、行政が担う最も重要な責務の一つであると深く認識しています。また、小学校・中学校への入学に際しましては、ランドセルや体操服、学用品等の購入に相当の費用がかかり、保護者の皆様の経済的負担が大きいことも十分に承知しているところです。こうした状況を踏まえ、本町教育委員会にしましては、現在、就学援助制度による入学児童生徒準備金の支援を実施しています。この準備金は、経済的な理由で就学が困難と認められる小学校入学予定児童および中学校入学予定の小学6年生の保護者を対象とし、入学準備にかかる費用の一部を支援するものです。その上で、議員からご提案のありました現金支給に限らず、図書カードや学用品などを含めまして、新たな入学祝い制度の創設につきましては、対象範囲の設定、町内在住要件、転入転出時の扱いなど、住民の皆様への公平性をいかに担保するかという観点、そして、制度を安定的かつ継続的に実施していくための財源の裏付けが不可欠となります。このため現時点では、入学祝い制度の創設につきましては、慎重に検討せざるを得ないと考えています。制度が子どもたちや保護者の皆様にとって真に喜ばれるものとなるためには、安定した財源の確保が絶対条件であり、その確保が見通せない現段階では、直ちに実施することは困難であると言わざるを得ない状況です。その理由としまして、三点を

申し上げます。第一に、将来にわたる持続可能な財源の確保という課題です。本町の人口は、推計によりますと、今後も減少すると見込まれており、厳しい財政状況が続くことが予測されます。新たな恒常的経費を伴う事業の創設は、将来にわたる確実な財源の確保が不可欠であり、現状の財政状況を鑑みますと、持続可能性の観点から極めて慎重な判断が求められます。第二に、既存の支援施策との整合性、そして施策全体の優先順位を総合的に勘案する必要性です。本町では既に、子育て支援の一環として、18歳に達する年度までの子どもの医療費の助成や保育料の無償化、通学定期券購入費助成事業や、今年度より開始しました小中学校の給食費の無償化など、継続的な支援事業を実施しているところです。限られた財源の中で、どの施策に重点を置くべきか、総合的な検討が必要であり、「入学祝い金」という一時的な給付と継続的なサービスの充実、いずれを優先すべきかにつきましては、今後さらなる深い議論が必要であると認識しています。第三に、政策効果の測定が極めて困難であるという点です。本町の年間出生数が10人を下回る状況の中、入学祝い制度が、少子化対策として、どの程度の効果をもたらすのか、その効果を客観的に検証することは、誠に難しい側面があります。以上の三つの観点から総合的に判断しました結果、議員ご提案の入学祝い制度につきましては、その趣旨は十分理解するものの、現時点において直ちに制度を創設することは困難であると考えています。なお、子育て世帯への経済的支援の必要性は、町としても十分に認識しています。他自治体の事例等も参考としつつ、本町にふさわしい子育て支援のあり方について、引き続き研究、検討を重ねてまいりたいと存じます。

喜田議長 一山産業課長。

(一山産業課長 登壇)

一山産業課長 木本議員の「アウトドア及びマリンスポーツの展開について」お答えします。観光立国の復活に向けた国の各種施策の実施により、国内旅行やアウトバウンドが徐々に回復傾向にある一方、インバウンドについては、令和7年の訪日外国人客数4,268万人と旅行消費額9兆4,500億円がともに過去最高を更新しています。このような中、徳島県及び県南1市4町で構成するみなみ阿波観光局が国内外から選ばれる「魅力的な観光地域づくり」を目指して主体的に広域観光に取り組んでいます。みなみ

阿波観光局と連携し、みなみ阿波が競技会場にもなる「ワールドマスターズゲームズ2027」を観光需要の創出につなげる取り組みとして、SNS強化による認知度・魅力度向上の促進を図りつつ、本町としましてもインバウンド誘客を促進させるため、多言語に対応した観光周遊プランを提供する環境整備を進めておるところです。また、本定例議会に予算計上させていただいていますタウンプロモーション推進事業においても、徳島県や各徳島県人会が主催する総会や交流会の場において、昨年、製作した海中映像のVRも活用しながら、牟岐町の魅力を積極的に発信し、観光誘客へつなげる施策を講じているところです。続いて、「牟岐町独自の地域ブランド戦略について」お答えします。牟岐町にある豊かな海・山・川・島の観光資源を最大限に活用したアウトドアやマリンスポーツは、牟岐町において魅力ある観光資源となります。特に、海や島は他に類のない魅力があります。水産業と相互に補完しながら所得と雇用を生み出す海業という視点を意識し、その観光資源に地域の魅力的な食文化、歴史資源を加え、環境保全の視点も組み合わせた「アウトドアツーリズム」を推進し、観光周遊プランの創出を目指し、みなみ阿波観光局、牟岐町観光協会や町内観光関連事業者と共に取り組みを進めているところです。最後に、「新庁舎等今後の活用について」お答えします。現在、役場新庁舎等は、防災拠点として整備を進めています。また、改修した牟岐町B&G海洋センターは、マリンスポーツの拠点というより、フィットネスなどを通じた健康増進の場としての活用を期待しているところです。なお、観光の観点から申し上げますと、「モラスコむぎ」がマリンスポーツの拠点として機能すると考えています。同施設は、浜辺に隣接する好立地に加え、コミュニティスペースやシャワー室を備え、近くには古牟岐港もあります。こうした条件を活かし、現在、指定管理者がマリンスポーツとの連携を進めているところです。今後、貝の資料館としての役割に加えて新たな施設利用者が増えれば、食事の提供など、地域のにぎわい拠点となり、新たな地域活性化へつながることも期待しています。私からは以上です。

喜田議長 久企画政策課長。

(久企画政策課長 登壇)

久企画政策課長 私からは、木本議員ご質問の「④これらの取組を通じた移住・定住促

進。若者の雇用創出、並びに地域住民との連携による持続可能な地域活性化について、今後のどのように取り組むのか。」のご質問にお答えします。牟岐海域は、離島特有のダイナミックな地形・魚影の濃さ・千年サンゴを始めとする希少性の高い海洋資源など高い海洋資源ポテンシャルを有しています。これらの海洋資源を適切に保全しながら、ダイビングを牟岐町の観光資源の1つとして育てていくことで、観光ダイバー誘致による新たな地域活性化の可能性を持っています。ダイビング観光客は、一般観光客と比較して滞在時間・宿泊率・リピート率が高い特徴があると考えられます。さらに、ボードダイビングでは船舶利用が必要となるため、漁業者への収入にもつながる可能性が大きいと考えられます。加えて、ダイバーは「気に入った海へ繰り返し通う」傾向が強く、一度その地域の海を好きになると継続的に来訪するリピーターや関係人口へ発展しやすい特徴を持っていると考えられます。この度、地域おこし協力隊による地元漁協や漁業者、地域事業者と連携したダイビング事業立ち上げに向けた海中資源調査の予算を計上させていただきました。本調査により潜水可能ポイント情報の一覧、潮流・危険個所に関する確認記録、潜水導線に関する整理資料、緊急時対応に関する資料、海域利用マップ案の作成などを整備し、関係者へ共有していきたいと考えています。

喜田議長 木本議員。

木本議員 教育次長、産業課長、企画政策課長、ありがとうございます。ご答弁。財政面などいろいろな様々な課題があることは理解しています。しかし、子どもの数が少なくなった今だからこそ、一人ひとりを大切にし、その成長を町全体で応援する姿勢がこれまで以上に求められていると考えます。入学祝いは金額の大小ではなく、「あなたは町の宝です。」「みんなで応援しています」という町からのメッセージでもあります。子育て世帯に選ばれる町、子どもたちの笑顔あふれる町を目指し、今後、入学祝い制度をはじめとするさらなる子育て支援の充実を期待しています。次に、アウトドア及びマリンスポーツを活用した地域活性化についてお話しします。いろいろと前向きな施策を考えてくださっていることは十分分かりました。それでも今、鳴門とかモンベルとの共演していたり、連携していたりしています。徳島県も凄く力を入れていますので、何とかそれも視野に入れてアウトドアを活用した地域活性化が進められていますが、その中で

も牟岐町は本当に海・山・川に恵まれ、千年サンゴや出羽島をはじめとする素晴らしい地域資源を有しています。これらの資源を活かした取り組みが、観光振興だけでなく、移住・定住の促進、若者の雇用創出、そして地域経済の活性化につながることを期待しています。先日の新聞でも移住者は、牟岐は2名でした。また、自然環境の保全と地域振興の両立を図りながら、牟岐町の魅力を町内外へ積極的に発信し、多くの人を訪れ、住みたくなくなる町づくりを進めていただきたいと思います。牟岐町には、まだ磨かれていない宝が数多くあります。その宝を未来へつなぎ、子どもたちが誇れる町づくりを願ひまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。